

会務報告

I. 日本珪藻学会第39回大会

日本珪藻学会第39回大会(新潟)が平成30年5月19日(土)・20日(日)、日本歯科大学新潟生命歯学部において長田敬五氏を大会会長として開催された。

大会参加者は39名で、演題数は口頭発表16題(発表、質疑応答を含めて各15分)、ポスター発表10題(ショートサマリー、各3分)の計26題であった。第1日目は1号館アイヴィホールにおいて口頭発表、引き続いて1号館1階ロビーにおいてポスター発表が行われ、何れも活発な討論が交わされた。その後アイヴィホール内で参加者全員の記念写真が撮影された。その後、Hernández-Becerril氏による興味深い招待講演が行われ、引き続き、南雲保学会会長による特別講演がなされた。第1日目の全発表終了後、アイヴィホールで平成30年度総会が開催された。南雲学会会長の挨拶の後、小林敦氏が議長として選出され、報告と審議が行われた。総会の後、学内の食堂「GAKUSHOKU」に移動し、懇親会が開催された。懇親会参加者は32名であった。懇親会では、新潟の名酒と地元料理の珍味にどの参加者も舌鼓を打ち、全員で「すばやくみつけて 絵合わせパズル」ゲームに興じ、夜遅くまで話がはずんだ。第2日目は7題の口頭発表が行われ、活発な質疑応答が行われた。全ての講演が終了した後、日本珪藻学会第39回大会最優秀発表賞の表彰式が行われ、嶋田侑真氏が授与された。最後に長田敬五大会会長の挨拶で閉会した。

大会会場を提供いただいた日本歯科大学新潟生命歯学部、準備ならびに運営に協力いただいた大会準備委員の各位に深く感謝申し上げます。

II. 平成30年度運営委員会

平成30年度日本珪藻学会運営委員会が平成30年5月19日(土)11時より日本歯科大学新潟生命歯学部1号館会議室において開催された。出席者は、出井雅彦(編集委員長、会則第4章第12条により出席)、大塚泰介、長田敬五、後藤敏一、佐藤晋也、鈴木秀和、辻彰洋、豊田健介、南雲保、真山茂樹(50音順)の10名であった。

【報告事項】

- 1) 新会計幹事の紹介
南雲保学会会長より、松岡会計幹事の退会に伴って豊田健介氏を新会計幹事に指名したことが報告された。
- 2) 会員状況
- 3) 編集委員会関係状況
- 4) 会計状況
- 5) 学会誌 Diatom vol. 33 の献本先(従来どおり12件)
- 6) 次回の大会および研究集会開催地
- 7) 日本分類学会連合参加報告
- 8) 日本珪藻学会学会賞
- 9) その他

【審議事項】

- 1) 平成29年度決算
会計監査の田中宏之氏と小林秀明氏の監査を受けた決算が承認された。
- 2) 平成30年度予算
これまで予算に組み込まれてきた繰越金は、その一部を大会開催補助費等にも充てられるように予備費という項目として表記する方針とすることが決まり、その内容の詳細については今後検討していくことになった。本年度の予算が承認された。
- 3) その他
これまで学生が入会する際、身分証明用に学生証の写真(写し)の提出が条件付けられていたが、審議の結果、今後は不要とすることが決定した。
バンクナンバーの保管や移管について検討された結果、保管冊数を30冊から10冊に減らし、残りは処分(ディスカウントによる販売を含む)することになった。

III. 平成30年度総会

平成30年度総会が、第39回大会会期中の5月19日(土)に小林敦氏を議長として大会会場(日本歯科大学新潟生命歯学部アイヴィホール)で開催された。

【報告事項】

- 1) 会員状況
鈴木秀和幹事(会員)より以下のような会員状況が報告された。普通会員199名(一般会員165名、学生会員24名、奨学会員4名、家族会員2名、海外会員4名)、名誉会員2名、団体会員4名、賛助会員3名(個人2名、団体1名)、合計208名(平成30年4月現在)。
- 2) 会計状況
南雲保学会会長より新会計幹事の豊田健介氏が紹介され、その後、平成29年度の決算が報告された。会計監査の田中宏之氏から当該決算が適正であることが報告された。
- 3) 編集委員会関係状況
編集委員長より Diatom 33 巻が発行されたこと、掲載論文の J-Stage への公開されていること、Diatom 34 巻の編集状況について報告された。
- 4) 日本分類学会連合総会参加報告
日本分類学会連合第18回総会が、平成30年1月6日(土)10:00~12:00に国立科学博物館上野本館講堂で開催され、南雲学会会長が出席した。2017年度会計決算および2018年度予算案が報告・承認されたこと、日本自然史博物館設立の進捗状況に関して建設予定地の沖縄県が協力であり、既に広報用の冊子が配布されたこと等の概要が報告された。
- 5) 日本珪藻学会学会賞の発表
長田敬五庶務幹事より、平成30年度日本珪藻学会論文賞は第二次選考において過半数得票の論文がなかったため今年度の表彰は見送ること、および功労賞の推薦はなかったことが報告された。また、日

本珪藻学会第 39 大会最優秀発表賞の表彰は、20 日の大会終了時に行うことが告げられた。

6) 今年度の研究集会および次年度大会について

今年の日本珪藻学会第 38 回研究集会は後藤敏一氏(近畿大学)を世話人として平成 30 年 10 月 27 日(土)、28 日(日)に近畿大学医学部キャンパスで開催されること、また、次年度の日本珪藻学会第 40 大会は岩井雅夫氏(高知大学)を世話人として、2019 年 5 月 11 日(土)、12 日(日)にオーテピア(高知市追手筋 2-1-1)において開催を予定していることが報告された。

7) その他

後藤敏一氏より日本珪藻学会第 38 回研究集会の詳細について案内がなされた。

【審議事項】

1) 平成 29 年度決算

会計監査を受けた以下の決算が承認された。

平成 29 年度決算 (平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

収入		支出	
前年度繰越金	5,082,887	印刷費(33 巻)印刷	290,844
会費	1,256,000	発送費	38,740
会誌売上金	20,000	庶務雑費	32,000
受取利息	300	大会開催補助	50,000
		日本分類学会連合分担金	10,000
		インターネット使用料	1,852
		次年度繰越金	5,935,751
合計	6,359,187	合計	6,359,187

2) 平成 30 年度予算

以下の予算案が提案され、予算が承認された。

平成 30 年度予算 (平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日)

収入		支出	
前年度繰越金	5,935,751	印刷費(34 巻)印刷	500,000
会費	1,000,000	発送費	100,000
会誌売上金	30,000	庶務雑費	30,000
受取利息	300	日本分類学会連合分担金	10,000
		インターネット使用料	2,000
		予備費	6,324,051
合計	6,966,051	合計	6,966,051

3) その他

IV. 日本珪藻学会第 38 回研究集会

日本珪藻学会第 38 回研究集会が、平成 30 年 10 月 27 日(土)、28 日(日)の両日に、近畿大学医学部において、後藤敏一氏を研究集会会長として開催された。参加者は 45 名(一般:31 名, 学生:14 名)であった。第 1 日目には、一般講演(口頭発表:8 題, ポスター発表:10

題)、南雲保学会会長による「最近の中国珪藻研究」についての講演が行われた。休憩の時間などを利用して、研究発表者との間で十分な質疑・応答、情報交換が行われ、また、記念写真の撮影も行われた。辻彰洋会員を通じて、福嶋博会員、故渡辺仁治氏の論文別刷りの提供があった。会期中、学会誌 Diatom のバックナンバーが販売された。第 1 日目の研究発表終了後に、本研究集会における最優秀発表賞の表彰式が行われ、牟田神東陽奈氏と小林未宇氏が授与された。その後、懇親会が 35 名の参加のもと MM 室にて開催された。会の中で、岩井雅夫氏より、第 40 回大会(高知大学)開催についての案内があった。また、SEM 写真による珪藻の学名当てクイズや文献の著者名・出版年当てクイズなどが行われ、会員相互の親睦と研究面での情報交換の場となった。第 2 日目には、シンポジウム「大阪層群・古琵琶湖層群・東海層群一珪藻研究の現状とビジョン」が開催され、里口保文氏(琵琶湖博物館)による招待講演のほか、4 演題の講演が行われ、各層群の古地理・古水系、古環境復元、珪藻の分布、進化、琵琶湖の固有種など、さまざまな視点からの珪藻研究の現状の紹介と今後の課題について議論が行われた。最後に、南雲保学会会長による挨拶で閉会した。

V. 平成 30 年度編集委員会

平成 30 年度日本珪藻学会編集委員会が平成 30 年 5 月 19 日(土)10 時より日本歯科大学新潟生命歯学部 1 号館会議室において開催された。出席者は、南雲保(会長)、出井雅彦(編集委員長)、大塚泰介委員、佐藤晋也委員であった。

1. 報告事項

1) Diatom 第 33 巻(報告)

- ・総ページ数 49 ページ。論文 5 編(原著 2 編, 短報 2 編, 研究ノート 1 編)、第 38 回大会・第 37 回研究集会のプログラムと要旨、会務報告、英文論文の和文摘要。
- ・論文の掲載は基本的に受理順とした。
- ・引き続き印刷は、(株)国際文献印刷社に依頼した。

2) Diatom 掲載論文のウェブ上での公開について(報告)

- ・受理された論文から順に PDF を J-Stage にアップしている。
- ・31 巻(2015 年)掲載の全論文について、2017 年 12 月末日よりフリーアクセスとした。また、即時公開権が購入された論文については、32 巻(2016 年)、33 巻(2017 年)についてもフリーアクセスとしている。

3) 第 34 巻編集状況(報告:2018/5/19 現在)

受理論文:

- ①原著 1 編(校了, J-STAGE にアップ済み)
 - ②原著 1 編(間もなく校了)
- 受付, 審査中: 2 編

4) 編集委員会体制(平成 29 年, 30 年)

編集委員長: 出井雅彦(文教大学)

編集委員：阿部信一郎（茨城大学）、大塚泰介（滋賀県立琵琶湖博物館）、佐藤晋也（福井県立大学）、澤井祐紀（産業総合研究所）、須藤齋（名古屋大学）

2. 審議事項

- 1) 研究ノートの投稿を増やすために。
1, 2 ページの簡単な報告の投稿をお願いする。サンプルとなるような報告をいくつか編集委員が責任もって作成し、今年度号に掲載する。
- 2) カラー印刷について。
印刷の場合、カラーは著者負担であるが、オンラインのみ無料にすることが出来るか、業者に確認する。
- 3) その他。
出来れば7月末までに、それ以降になると今年度号には間に合わない可能性があることを周知する。また、総説の希望があれば、テーマや案を編集員長まで寄せてもらう。

VI. 2019・2020 年度役員

任期満了に伴い、次期会長および運営委員選挙（平成30年10月15日告示、同年11月5日投票締め切り）が実施された。平成30年11月15日、東京海洋大学において牟田神東陽奈氏と笹野凧氏を立会人として開票された。その結果、会長1名および運営委員8名が以下のおり選出された。役員の任期は、2019年1月1日から2020年12月31日である。

会長：出井雅彦（次点者：真山茂樹）
運営委員（50音順）：大塚泰介、長田敬五、後藤敏一、齋藤めぐみ、佐藤晋也、辻彰洋、豊田健介、伯耆晶子（次点者：柳沢幸夫）

以下の役員が新会長によって指名された。

編集委員長：佐藤晋也

編集委員：5, 6名の委員を依頼中、次年度の総会で発表予定。

幹事：小林秀明（庶務）、豊田健介（会員・会計）

会計監査：2019年度運営委員会において選任し、委嘱する予定である。

VII. 2019 年度大会および研究集会開催予定

珪藻学会第40回大会（高知）

期日：2019年5月11日(土)、12日(日)

場所：オーテピア（高知市追手筋2-1-1）(予定)

世話人：岩井雅夫氏

日本珪藻学会第39回研究集会

開催予定日（詳細未定）

場所：東京学芸大学

世話人：真山茂樹氏

日本珪藻学会賛助会員

パリノ・サーヴェイ株式会社

〒375-0011 群馬県藤岡市岡之郷字戸崎 559-3

☎ 0274-42-8129

日本ケイソウ土建材株式会社

〒191-0012 東京都日野市日野 270-4

☎ 042-843-2877